

第3回和光ブランド認定推進委員会 会議録（要旨）

日時 平成24年8月9日（木）

14:00～16:00

場所 和光市役所4階 403会議室

出席 委員（◎委員長、○副委員長）

◎第1号委員 郭 洋春 委員（立教大学 教務部長・経済学部教授）

第2号委員 富岡 健治 委員（和光市商工会 副会長）

第3号委員 池田 作治 委員（あさか野農業協同組合 和光支店長）

○第4号委員 吉澤 茂 委員（㈱スカイ・テクノ 代表取締役）

第5号委員 小野寺 洋子 委員（㈱光英科学研究所 専務取締役）

二宮 真由美 委員（favorite 代表者）

第6号委員 梅沢 直 委員（市民公募）

事務局

市民環境部次長兼産業支援課長 阿部 英之

産業支援課課長補佐 遠藤 秀和

産業支援課産業育成支援担当統括主査 上原 弘之

産業支援課産業育成支援担当主事 岡田 明子

傍聴 0人

司会進行 市民環境部次長兼産業支援課長

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 和光ブランド事業実施要綱（案）について

(2) 認定基準（案）について

(3) 応募要領（案）について

(4) 認定審査評価表（案）について

(5) ブランドロゴマーク（案）について

(6) 副都心線・東急東横線相互直通運転開始について

(7) その他

4 閉会

【議事内容】

(1) 和光ブランド事業実施要綱（案）について（事務局）

…第2回和光ブランド推進委員会の意見を踏まえ、実施要綱（案）の修正を行った。

内容確認の上、修正意見なし。資料1

(2) 認定基準（案）について（事務局）

…第2回和光ブランド推進委員会の意見を踏まえ、認定基準（案）の修正を行った。

内容確認の上、修正意見あり、修正後決定。資料2

<修正箇所>

・4-①「高い市場性」「商品の拡大」の基準が数量なのか売上なのかがわからない。採点をする際に、評価しづらくなる。

（事務局）商品が売れることにより、消費者ニーズと合致し、種類も増えていき、商品が拡大されること

⇒「消費者ニーズ・市場性・商品等の拡大が期待できるか」に修正

(3) 応募要領（案）について（事務局）

…第2回和光ブランド推進委員会の意見を踏まえ、応募要領（案）の修正を行った。

内容確認の上、修正意見あり、修正後決定。資料3

<修正箇所>

・4 応募資格【申請者】「…製造・加工・開発を行い…」

⇒「生産・製造（開発）及び加工を行い」に修正する。

（実施要綱に合わせる）

・4 応募資格について、【申請者】も【推薦者】も両方いないといけないように思える。

⇒「自薦（申請者）、他薦（推薦者）を問わず」の文言を入れて修正

・4 応募資格【推薦者】「事業所」の表記について、一般的に「事業所」という言葉は通じるのか。

⇒上記3の認定対象を見たら、事業所を判断できる。問合せがあったら、事務局が対応する。

・6 審査方法について、申請者はプレゼンテーションをすることを前提として、申請してもらう。

(4) 認定審査評価表（案）について（事務局）

…「和光ブランド認定申請書」「和光ブランド認定推薦書」記入例について。

資料 4

- ・記入例の内容が多く、記入者にとってハードルが高くなってしまっている
- ・記入例は簡素化した方がいいのでは
- ・申請者の概要は株式会社よりも商店名や有限会社の方が、参加しやすくなるのではないか。
- ・食べもの例だけでなく、製造・加工品の例もあったほうがいい

…「和光ブランド認定審査 評価表（案）」について

認定審査評価表（案）の内容を確認。採点基準やウェイトを付けた採点、認定基準点について検討した。資料 5

< 討論内容 >

- ・項目別評価と基準別評価のどちらの評価が適切であるか

項目別評価のメリット

- ①個々の項目について点数のウェイトを変更できること。
- ②項目ごとに採点なので、採点がしやすい。
- ③点数の幅が広がる。

項目別評価のデメリット

項目によっては、取組が認められないものが数多く出てきてしまう可能性がある。

基準別評価

採点欄が少ないので点数の幅が少ない状況が発生する。また、各項目を総合的に判断しなければならないので、高評価の点数が付きにくい。

⇒事務局としては、項目別評価を取り入れたい

< 委員意見 >

- ・審査時間等はどうするのか

（事務局）まだ詳細については決めていないが、プレゼンテーション、質問後、5分から10分の時間内で、その場で委員一斉に審査してもらう。

- ・基準別だと、最低でも4点となり点差や平均点が出しにくい。
- ・点数の差が出る項目別の方がいいのでは
- ・55点満点の項目別の審査方法がやりやすいのではないのだろうか。

⇒項目別か基準別に関して、項目別評価で意見一致

- ・合格基準点、審査項目へのウェイトを考えたらいい
- ・絶対評価なのか、相対評価なのか
- ・相対評価にしてしまうと毎回のレベルが違ってしまう。合格点に行かない時もあるだろうし、認定が無い時は無いでいいのではないか。
- ・厳しい審査が必要

⇒項目別評価の**55点満点**で意見一致（ウェイトは置かない）

- ・最低合格基準について
 - * 11項目オール4の44点かどうか
 - * オール3の33点だと少し低いか
 - * 評価基準については、委員の人の持っている主観で行えればいい。
自分の中で平均をどこに置くかを考える
 - * 採点項目で2-③や3-②などレベルが高い項目（1点の可能性）があるが、今後の可能性を込めて採点できるようにしたい

⇒合格基準点は**40点以上**とする

- ・不承認となったものに対し、次回以降も意欲持って申請・推薦いただけるように、点数やコメント等を返しフィードバックしてもらうようにする。次回に向け、期待を持ってもらうコメントを残し、改善を求める。
 - ・評価結果集計について
 - * 1人でも合格基準点の40点に言っていなかったら不承認とするか
 - * 4人以上（委員半数）が40点を超えたら認定するか
- ⇒全員の平均点を出し、当日の委員協議によって認定をする

(5) ブランドロゴマーク（案）について（事務局）

…他のブランドマーク例を参考に和光ブランドロゴマークのイメージのたたき台を提案した。各委員からブランドロゴに取り入れたいイメージを聞きながらブランドマークを検討する。**資料6**

例 「いちょうとさつきの色や和光市の色むらさき」

「和光市の地図と市紋章」

「和光のW」（フリーロゴサービスのサイトを活用）

- ・ロゴマークを1番使うのはどこなのか
（事務局）PR用ののぼり旗や店舗に掲示するポスター。
商品については、パッケージ等にシール等で貼ってもらう
- ・マークを公募する予定はあるのか
（事務局）予定はない

- ・色は大事になってくる
 - ・シンプルだけどインパクトのあるものを
 - ・市の全体的なイメージ、市として統一感のあるもの
 - ・すっきり、おしゃれに
 - ・一目見て和光のものだとわかるもの、象徴するようなもの
 - ・和光ブランドとなるもの、「和光」はしっかり表し、英語表記は控えたほうがいい
 - ・和光市の字体は決まっていないのか
(事務局) 決まっていない
 - ・ブランドロゴマーク以外に使う用途はあるのか
(事務局) ない
- ⇒意見を踏まえ、次回委員会時に修正したロゴマーク(案)を提示する。

(6) 副都心線・東急東横線相互直通運転開始について (事務局)

相互直通運転開始日が3月16日(土)に決定。(別紙説明)

開通日に和光ブランドのお披露目を予定。

駅南口にてテントを設置しイベントを検討しており、和光ブランド認定推進委員会の中で今後内容を話し合っていきたい。

また、副都心線・東急東横線相互直通運転開始記念イベントについて、和光ブランド認定推進委員会で検討する予定でしたが、対外的に捉えた時に、和光ブランド認定推進委員会とは別の委員会を組織して行う方が良いとの判断により、(仮称)副都心線・東急東横線相互直通運転開始記念検討委員会の立ち上げを検討している。

そこで、和光ブランド認定推進委員会のメンバーに委員を兼務して頂き、和光ブランド認定推進委員会の開催時に同時開催とさせて頂きたい

また、イベント開催については、市と商工会で連携しながら実施して行きたいと考えている

⇒委員了承

(7) その他

① 次回の委員会の日程について

11月7日(水) 14:00～(503会議室)

詳細について、後日委員各位へ通知を送付する。

② 委員長から

10月から募集が始まるので、委員からも周囲に声かけをしてもらいたい

③ 事務局から

「和光市みどころマップ」について紹介し、今年度末に改訂する旨を説明。和光ブランドの認定企業を盛り込むことや現在の掲載企業について紹介した。